



積丹町



対照区



設置区



B級品



極上品

藻場造成の経済効果 対照区(磯焼け漁場)と設置区(再生藻場)のウニの実の状態

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体 美国・美しい海づくり協議会／余別・海HUGくみたい 【積丹町】

ウニから始まるSDGs～ウニと藻場の循環型再生産システムの実践

【はじめりは？】

積丹町では、町の特産品であるウニが、磯焼け現象により減少していました。積丹町の漁業者で構成されている当組織は、ウニの生産量の減少を食い止めることを目的に、海の森づくり（ホソメコンブの藻場造成）を平成21年度から開始しました。

【おもな活動】

当組織は、ウニの安定生産・供給のため、ウニの餌となるホソメコンブの養殖や廃棄物であるウニ殻を施肥材として利用した藻場再生により、持続可能な漁業を推進しています。

また、水産と畜産の連携の取組として、町内の農業法人が飼育する羊の餌に養殖コンブを与えることで、肉質を向上させたり、積丹町地域活性化協議会が行う海藻などの水産物を利用した商品開発にも協力しています。

漁業と環境保全の理解増進のため、地元の小学生を対象とした体験学習や、町内外の小学生や都市部の一般市民を対象としたセミナーを開催し、これらに用いるプロモーション動画の作成も行っています。



コンブの餌を食べる「しおかぜ羊」



漁業への理解増進活動（ウニ養殖見学会）

【ここが自慢】

ウニ殻肥料による海の森づくりで藻場が再生され、その藻場で育ったウニを漁獲するという「ウニと藻場の循環型再生産」が実現し、ウニの生産量と品質が向上するとともに、SDGsの目標達成にも寄与しています。藻場の保全・創造は、二酸化炭素の吸収源となるため、当組織は「ブルーカーボンクレジット」の取引を行い、得られた資金を藻場造成の拡大に利用することを計画しています。

積丹町では、これらの活動により、「自然、人、産業の和で築くまち」を目指しています。



ウニ殻肥料づくり



ホソメコンブの収穫作業

連絡先

代表者名：白川 浩治さん 澤 貴幸さん／設立：2008年／会員：123名

住所：積丹郡積丹町大字美国町字船濶48番地5

電話番号：0135-44-3382

F A X：0135-44-2125

E-mail：nourin@town.shakotan.lg.jp

U R L：